

A I S、サイバーロジ社と協業で顧客ニーズ対応 運航管理セミナーを開催

海運業向け会計システムなどを提供しているエイ・アイ・エス(A I S)は21日、韓進海運のグループ会社で船社向け運航管理ソリューションを提供するサイバーロジックとともに都内で「海運業向け運航管理ソリューションセミナー」を開催した。共催の理由についてA I Sの大浦博社長は「サイバーロジックの上



A I S・大浦社長

流システムとわれわれの会計システムをインターフェースしながら、様々な顧客のニーズに応じていく」とあいさつの中で述べた。セミナーでは、海運特有の事項に対応したA I Sの会計システムや船主向けの決算予測ソリューション、サイバーロジックの運航管理ソリューションが紹介された。

企業への会計システムの提供などを事業とするA I Sは、15年ほど前から大手海運会社の多通貨会計を手掛けてから、徐々に海運業界に特化するようになった。現在では、中国の北京、大連、韓国のソウルに現地法人を置き、グローバルに展開している。一方、サイバーロジックは、韓進海運のI T部門から独立し、海運物流分野のI Tソリューション専門会社として成長を遂げている企業。2007年の売上高は66億円となっており、08年は100億円を目標にしている。従業員は380人、そのうち約8割が研究開発に従事している。



サイバーロジック・Hwang 常務

20日の大阪に続き両社が共同で開催した今回のセミナーには、海運業界の

経理担当者などが多数参加した。セミナーの冒頭で、A I Sの大浦社長は、サイバーロジックとの協業体制の確立について、「われわれが提供する会計システムだけでは、顧客のニーズ、問題点に応えることに限界があり、そのの上の上流システムと併せて顧客に提案することが求められている。両社のシステムをインターフェースしながら、様々な顧客のニーズに応じていく」と述べた。

サイバーロジックの業務は、工場から倉庫までの物流において適切なITソリューションをすべて提供するもの。同社は、倉庫管理システム、ターミナル運営システムや、コンテナ船、バルク船、フェリー船など船種を問わず、海運物流分野の総合的なソリューションを保持している。今回のセミナーに参加した同社のHwang, Hyo-Hyun 常務(営業企画本部長)によると、「世界でこのようなすべてのソリューションを持っているのは弊社だけ」という。同社が提供する運航管理ソリューションは、事業計画から見積書作成、契約、実績登録など業務を幅広くカバーし、採算性の検討や情報の共有に有効で、契約実績の分析や経営層の意思決定に必要な資料提供などにも役立つもの。セミナーでは、バルク船の運航管理を行う“BMS”(BULK MANAGEMENT SYSTEM)を使用し、解説した。

一方、A I Sでは、同社が提供する海運業会計ソリューション「TRNS-ACCOUNT」と船主向け決算予測ソリューション「TRANS-Owner」の2つを紹介。昨年、大幅にバージョンアップした「TRNS-ACCOUNT」は、これまでに蓄積したノウハウを結集した海運業界向け戦略会計システムとして、Web対応となったほか、相殺精算機能を追加し、セキュリティ機能も強化した。また、船主向けの「TRANS-Owner」は、10年後までの将来の財務諸表を作成することができ、投資額が大きい船の建造に絡む意思決定に役立てられる。また、貸船料や借入金の金利、船の耐用年数などの条件を変更することで損益やキャッシュフローへの影響を確認できるシミュレーション機能のほか、資金繰り管理、借入金管理にも役立つ。

両社の提供するソリューションは、互いにデータのやりとりができるようにインターフェースされており、2つの機能を組み合わせることにより、事業の効率性などが向上する。